

一 毎年節分に伊勢守宿所へ御成候、其時は五迄參候、又此時にかぎりて、同名の衆御供致し候はぬも、少々御相伴衆の御配膳を申候、又同時御成ニぐこ過て、そと御しづまり候時、同名備後守方に定りて、障子の際へそと參候て、鶏のうたふまねを三聲仕、雀の鳴まねを仕候へば、御ひるならせ給候て、還御成候、さだまりたる事にて候、

〔成氏年中行事 十二月〕朔日御祝如常、節分之夜、御方違御出管領奉公外様番ニ廻テ被勤之、十月中ニ被仰出、ヤウダイハ如常行始出御之時、被勤人、門外マデマカリ出ラル、時御輿ニ被召、有御禮テ妻戸ノ間へ御輿ヲ被寄、有御下テ面之坐ニ有御坐、亭被參御座伺候、其後式三獻、御劔一白御鎧御馬御鞍ヲ置引副、膚背御引出物持參ノ様前ニ具記之、御座替テノ様如御行初、御臺過テ後、管領ヲ爲始ト、御一家并老若各宿所へ歸、直垂ヌギ單物著テ被致出仕、御酒數獻、御引出物不知、其數參、御酒過ノ後、公方様御寢所へ御出之時、又御酒三獻參、

〔殿居囊 武家年中行事〕十二月下旬節分之日、七半時登城有之のしめ麻、

〔殿居囊 三編〕節分 福内、二抓、中音ニ而二聲、 鬼外、一抓、大音ニ而一聲、 御盃御酒御肴燒鳥 御吸物大鷲 右相濟、三方ニ大豆ヲノセ、詰合之面々へ被下、畢而御吸物御酒被下之、爲御祝儀於御前、時服五被下之、御飾之數三百六十柙井 櫛之枝ニ鯛之頭ヲサス、

〔德川年中行事 十二月〕節分

一幕時前、老中、若年寄、登城、

但御年男老中計長袴著用、其外熨斗目半袴、晝ハ如平日登城、例刻退座、

一 老中登城已前より、殿中伺公之面々、熨斗目半袴、

一 老中、若年寄、於奥御祝相濟、暮時過退出、

但此節焚火之間、上御敷居際ニ、本御番之御書院番頭、御小性組番頭列居、同所御敷居外御廊